

ASCOTについて

国立保健医療科学院 医療・福祉サービス研究部との協働

令和元年8月23日(金)
在宅療養支援課

ASCOT (Adult Social Care Outcomes Toolkit) とは

個人の社会的ケア関連QOL の測定尺度
(イギリスのケント大学で開発された尺度)

ケアを必要としている人のケアを受けている自分のQOLを
どう感じているかを測る尺度

本人の「視点」・「経験」・「感じ方」を評価できる

設問は9つ、領域は8つ(尊厳に関する質問が2つ)

尺度の8領域

1	日常生活のコントロール（何を、いつするかを選択でき、日常生活や活動を制御できる）
2	個人の清潔さと快適さ（清潔・快適で見苦しくなく、好みを反映した装いや身だしなみができていると感じている）
3	飲食（十分な食料や飲料を定期的に楽しみながら、栄養があり、多様で文化的にふさわしい食事ができていると感じている）
4	個人の安全（安全や危険がないと感じている。虐待や転倒、身体的な危害を加えられる恐れがない）
5	社会参加と関与（友人・家族との関係の継続、参加やコミュニティに属しているかの状況に満足している）
6	有意義な活動（雇用、無償労働、他者のケア、レジャー等の多様な有意義な活動で充たされている）
7	居所の清潔さと快適さ（全ての居室を含む住環境が清潔で快適と感じている）
8	尊厳（支援やケアが利用者の自己肯定感に与えるマイナス・プラスの心理的影響）

実態調査の目的

- ・高齢者の実態を把握し、次期計画に反映させること
- ・しかし、どうしたいかを問い、「実態」よりも「意向」調査となることも多い
- ・どんなサービスを利用したいかの思いだけではなく、高齢者の心身の状態、生活状況、実際に利用しているサービス、そこから何が変わったか(アウトカム)、等の事実を把握することが必要
- ・実態を把握できるデータを集めて、有効に活用することは必要なサービスの種類と供給量を計画に盛り込む際に大きく役立つ

ASCOT尺度をどう活かすか？

- 領域別・集団別のニーズを探る
 - ASCOT8つの領域のどの領域でニーズがあるか
 - 属性、地域別にどの領域でニーズがあるか
- ニーズ把握から政策判断・事業展開につなげる
 - どのような領域のサービスを、どの地域に、どのような属性に優先して提供するか
- 事業の効果・費用対効果の評価につなげる
 - 新たなサービスは従前のサービスと比べて、コストはどうか、成果がでているか

国立保健医療科学院からの提案

第4期の高齢者福祉総合計画の基礎調査と合わせてASCOTを用いたアウトカム評価を実施してはどうか

- ・従来の調査項目と合わせて実施することで、新たな視点での分析が可能: **どのようなサービスや支援利用者のQOLが高いか等**
- ・分析結果を日野市にフィードバックし、市民サービスの向上につなげることができる

(方法)

- ・「可能ならば…」など注釈をつけ、市民の負担にならないように配慮